

事業報告書 (令和 3 年度)

事業名 次世代に繋がるヒューマンアカデミー

団体名 一般社団法人医と食でつながる瀬戸大橋ライン Laboratory 担当者名 逢澤直子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

○次世代の医と食を中心に、持続可能とは？健康とは？について探求していくために、医療、福祉、自然科学、歴史、伝統文化等に関するアカデミーを不定期で開催。交流をする。

（コロナ対策のため定員 15 人限定）

○三宅商店さんより味噌の効用とお話をさせていただく。

日時：10/17

場所：ハッシュタグ

参加者：大人 20 名、子供 10 名



龍神 | 鉄火味噌 | 70g

○シェフに、岡山地域の食材を使用した防災食を考案してもらい、災害支援ネットワーク団体との試食会を施行。

日時：12月1日

場所：イルヴィラッジョ

参加者：7名

(様式第8号)



家にありそうな保存食品でできるもので、温かく栄養もあり、作る工程も楽しめることがコンセプト。

乾麺とビーフジャーキーとうめこ、ツナをトマトジュースで3~6時間漬け、そのまま鍋で水分がなくなるまで2分煮込む。最後にアクセントでわさビーフ。

○医療、食、教育現場、農業等各専門家と対談したもの、今必要な日常生活、健康に関する情報（以下①②）をオンラインでライブ配信する。（昨年 YouTube 作成したもの）

日時：2/20

参加者：10名（全国より、医療関係者）

①ヒューマンアカデミー#1 食。パイボン畑②米粉スイーツに託された思い。小山晴子さん
<https://youtu.be/xFHVYgw28fI>

②ヒューマンドキュメント#3 人と人がつながっているということは。植田朋哉先生（岡山市南部適応指導教室室長）

<https://youtu.be/uvXSx6ngqn8>

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

【ESDの視点を取り入れたところ】

- ③あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し福祉を促進する。
- ④すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
- ①包括的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

【ESDの視点で見直したところ】

- ②飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- ①あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。⇒コロナ渦中での見直し
- ⑩格差是正⇒コロナ渦中での状況

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

※事業内容がESDにどう貢献したか等を記入してください。

特にコロナ渦中での不安と恐怖心の解消、安心感を与えることで、仕事や子育て、仕事など次に進めることができた。

・地域住民を中心とした、地域コミュニティの多世代連携による多様な地域住民の生活の

質の向上を目指すため、多方面から、「健康」を探究し、分析研究することで、連携が生まれ発信ができた。

- ・コロナ渦中ではオンラインを使用して、ライブ配信で YouTube 作成した動画を配信して、どこにいても情報が得られ、安心感を得られた。
- ・自然治癒力と自己免疫力を取り戻すこと、生命エネルギーを高めることで不調を整えて環境の変化にも対応する力を各々が自覚し、自分で選べることを認識していくことができた。
- ・日常の生活の場での、生活者を中心とした疾病予防や健康増進が活発にできた。
- ・今回防災視点からも取り組みは活動の幅が広がり今後の展開もできた。

4. 今後の課題と展望

コロナ渦中での支援が思った以上に重要性があったので、取り組みをした。

妊婦さんや新生児を抱えたお母さんのためのケアは、コロナ渦中で母親学級のないお母さんには不安の解消になり、虐待防止にも今後も専門家の方のお話、支援、サポートは引き続きおこないたい。

賃金が失われたお家への繊細さんへの体に優しい洗剤の配布など、今後もやっていきたい。

今回防災視点からの取り組みは活動の幅が広がり、やってほしいとの今後の展開もできた。